

事例6

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代、甲状腺癌の患者。
- ・ 甲状腺全摘術、頸部リンパ節郭清術を施行。手術時間は約5 時間。術中出血量は約140mℓ、手術終了時に抜管。
- ・ 病棟帰室時から嘔声と軽度の狭窄音あり。帰室約30 分後、創部の重苦しさ、痰のからみがあり、吸引。約1 時間後、激しい体動とともに、息苦しさを訴え、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）は90% に低下、気道狭窄音が悪化した。頸部腫脹を認め、後出血と判断し、直ちに開創、血腫除去し気管挿管。手術室で血腫除去術を施行、挿管のまま帰室。血腫除去術翌日、挿管チューブがずれたため、チューブを除去、酸素マスクにしたところ、呼吸状態が悪化。頸部腫脹著明で再挿管、気管穿刺も困難、開創と気管切開も難渋し、間もなく心肺停止。甲状腺術後2 日目死亡。
- ・ 死因は、気道閉塞。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。